

(仮称) にぎわい広場整備基本構想 (概要版)

令和5年3月

岩倉市 建設部 都市整備課

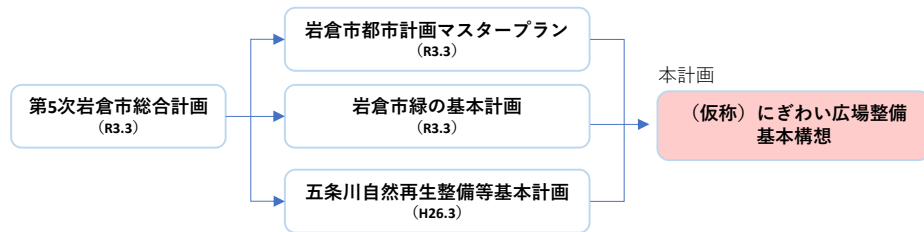
■事業の背景・目的

■事業の目的

岩倉駅を中心とする区域のうち、岩倉駅東地区については、2009年（平成21年）の北街区市街地再開発事業の完了により駅直近の木造密集住宅地の解消と駅前広場の整備は進みましたが、駅前広場から岩倉街道を経て五条川に至るエリアについては、狭い道路と都市計画道路桜通線整備等のための用地買収が進んだことによる未整備の土地が広がっている状況です。

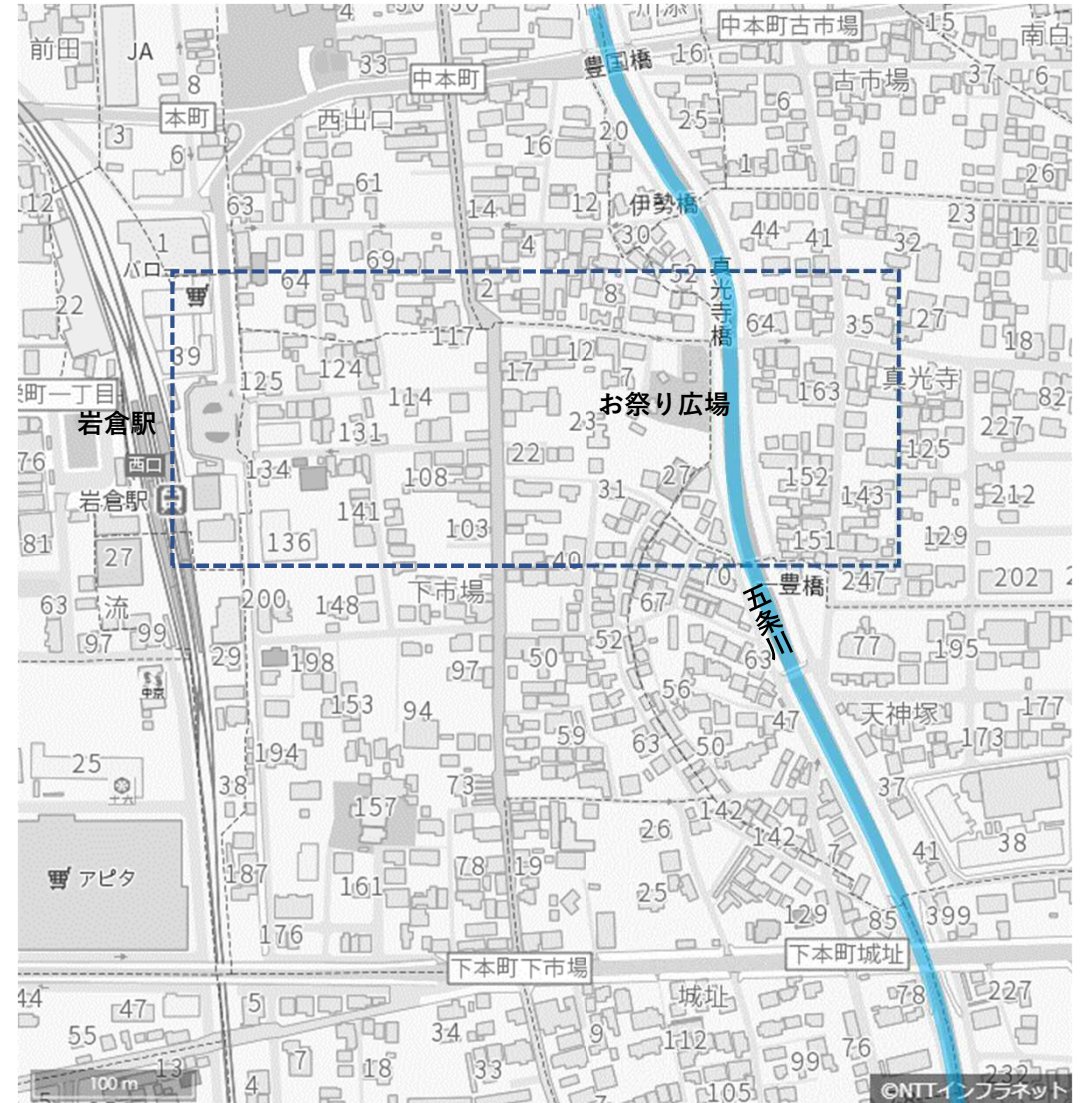
そこで、名古屋駅から最短11分でアクセスできるという好立地条件を最大限に生かし、面整備や街路整備も視野に入れながらマンション等の開発・整備を誘導し街なか居住を推進することによって、転入人口の喚起と買物需要を誘発させ、それに伴って必要となる商業機能をはじめとした多様な都市機能の整備・誘導を図っていくものとします。また、都市計画道路の整備による交通の円滑化を図りつつ、観光交流を推進することで中心市街地の再生とにぎわいの創出を図ります。

■事業の位置づけ



■エリア設定

岩倉駅からお祭り広場、五条川周辺を含む範囲を対象エリアとします。



■事業の背景・目的

■歴史的背景

- 中世に織田伊勢守の本拠地として岩倉城が成立し、落城までの約80年間、尾張の二大城下町として繁栄してきました。
- 近世には、城下町由来の都市機能を継承し、小都市的集落（在郷町）として、周辺の村落から群を抜いた規模であったとされています。
- 江戸時代の絵図には、現在のお祭り広場に接する神明生田神社が、緑のまとまりと共に描き遺されており、犬山街道（岩倉街道）とともに、当時の街の歴史的原形が、現代の街の骨格にそのまま継承されています。上・中・下の町内が保有する山車は、江戸初期に造られたとされ、現代にも受け継がれています。
- 近代に入り、周辺村落と合併し岩倉町が成立しました。名古屋電気鉄道の鉄道駅として岩倉駅が整備された後、都市化が進むにつれ、岩倉の繁栄の中心が駅前へ移行。戦後からは「名古屋市近郊の住宅地」として成長してきました。



図：神明太一宮鳥瞰図
（出典：岩倉市史資料（一）近世村絵図、施設名加筆）



図：大正時代の上市場の街並み
（出典：写真集岩倉）

■地区の現状と課題

人口減少による中心部の活力低下への対応

- 岩倉駅周辺は人口が微減傾向にあり、商業の活力も低下し（営業店舗数の減少）、従業者の減少数が大きく、商業・業務機能の空洞化が進行しており、岩倉駅前の顔であった中心市街地でありながら、日中の滞在人口が少なく魅力やにぎわいが不足している状況です。
- 多くの乗降者数がある拠点駅が中心にありながら、駅利用や乗り継ぎのみに留まっている傾向が強く、エリア全体に人の流れを生み出せていない状況です。
- 平面駐車場など小規模な低未利用地、空き地、空き家、空き店舗も増加傾向にあり中心部の空洞化の進行が懸念されます。

地域が有する魅力の有効活用

- 神明生田神社や山内一豊生誕の地といった歴史的資源、五条川の桜や神社境内中央の豊かな高木群などの多様な地域資源があるものの、それらが個別分散化しているため、駅東地区のまとまった個性として見えにくく、包括的な活用が望まれます。

■大切にしたい地区の魅力

- 自然の豊かさや地域コミュニティなどの魅力は、市民の声としても挙げられており、これらを大切にしながら、将来にわたって継承・発展させていく必要があります。



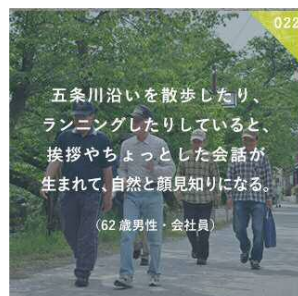
001
なんといっても
五条川の桜がきれい。
（63歳女性・主婦）



004
小さい街だから、街全体が
アットホーム。
名古屋まですくなのに、
田舎みみたいな温かさがある。
（23歳男性・公務員）



017
駅前のお店で鯛焼きを買っ
て、川岸で食べるのが幸せ。
（17歳女子・高校生）



022
五条川沿いを散歩したり、
ランニングしたりしていると、
挨拶やちょっとした会話が
生まれて、自然と顔見知りになる。
（62歳男性・会社員）



041
桜まつりは飲食コーナーやお
店が充実しているから、
食べ歩きができて楽しい。
10日間もあるので、
色んな友達と行ける。
（14歳女性・学生）



056
神様に守られている。
（14歳男性・学生）

いわゆるしやすい109の理由（岩倉市HPより）

■事業目標

- 市全体の人口回復に向け、まずは岩倉市の中心として発展してきた岩倉駅東地区から、さらに暮らしやすく、暮らしの場として再び選ばれるまちを目指します。
- 交通利便性と自然の豊かさ、地域のアットホームさを活かしながら、生活をより豊かにするコンテンツを誘導し、まちなかの暮らしをアップデートするとともに、市内外から人の集まる拠点としてその魅力を発信していきます。

① QOL※の向上のための居住環境整備

アフターコロナの生活様式の変化を踏まえ、多様なニーズに応え、安全で魅力ある公共施設の整備や、生活を豊かにする民間施設の誘導を行います。

② 官民連携による暮らしやすさや魅力の発信

地域と行政が連携して魅力向上や情報発信に取り組むため、地域拠点となる交流の場を整備するとともに、官民で協力できる体制を構築します。

③ 街道や神社など地域に愛される歴史・文化・桜並木の景観の継承発展

これまで大切にしてきた岩倉の歴史や文化を市内外の方々や後世にまでも伝えていくため、緑や歴史文化施設の保全や環境整備を行うとともに、祭りをはじめとした文化活動の継承・発展への支援を行います。

※QOL（Quality of life）…生活の質。充実した生活を送ること。

”いわくらしやすい“2.0 -岩倉の暮らしのアップデートを提案するまちのショールーム-

市域全体が、暮らしの場として選ばれるまちを目指し、まずは岩倉駅東地区を新しい暮らしを市民と創る場（まちのショールーム）にアップデートしていきます。

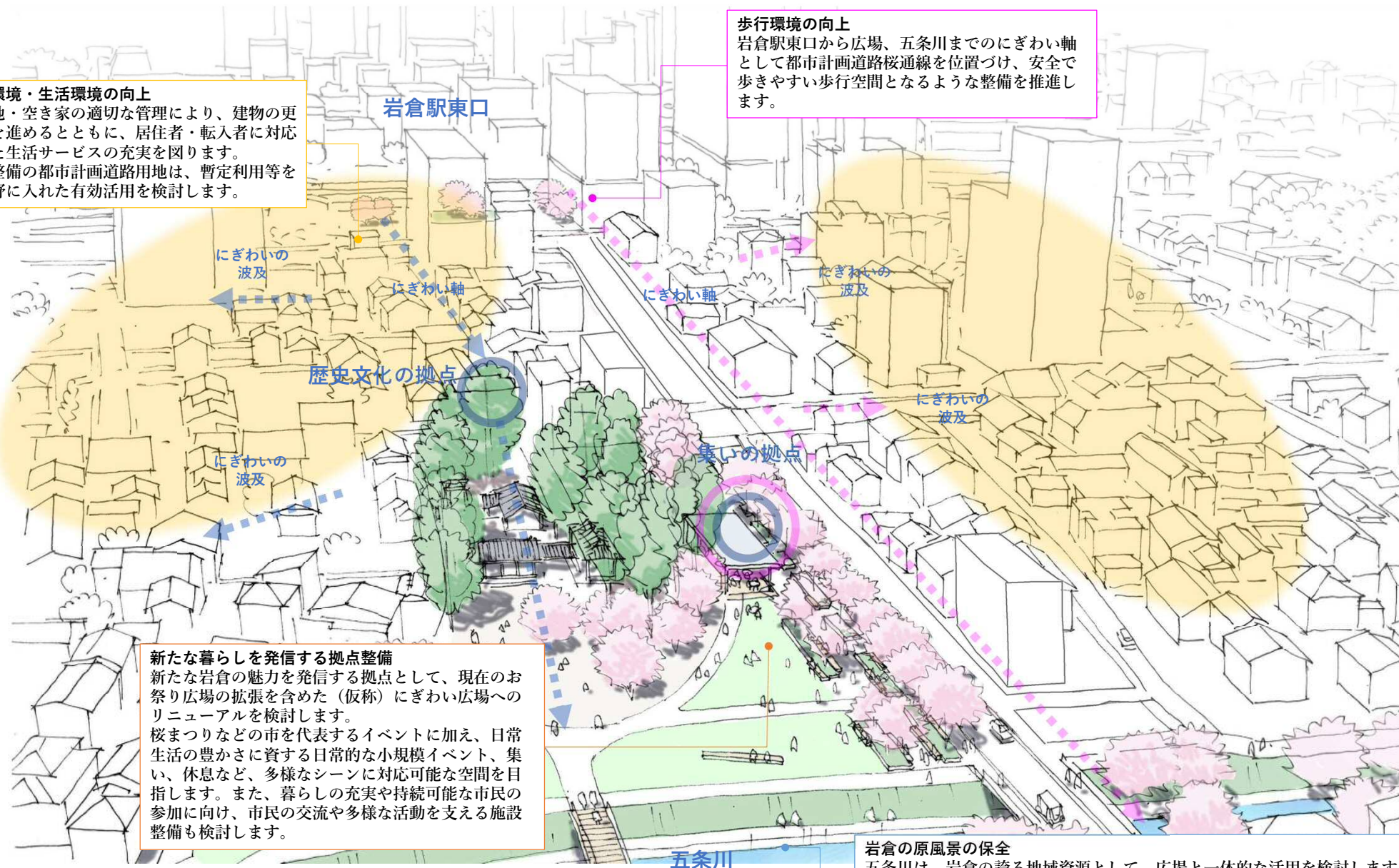
暮らしを豊かにする公共施設を整備するとともに、まちに暮らす方々が地区内の公有地等を使いこなしながら、個性豊かなアイデアを実現できる場となるよう、場の提供やコミュニティづくりなどの支援をしていきます。

住環境・生活環境の向上

空地・空き家の適切な管理により、建物の更新を進めるとともに、居住者・転入者に対応した生活サービスの充実を図ります。未整備の都市計画道路用地は、暫定利用等を視野に入れた有効活用を検討します。

歩行環境の向上

岩倉駅東口から広場、五条川までのにぎわい軸として都市計画道路桜通線を位置づけ、安全で歩きやすい歩行空間となるような整備を推進します。



新たな暮らしを発信する拠点整備

新たな岩倉の魅力を発信する拠点として、現在のお祭り広場の拡張を含めた（仮称）にぎわい広場へのリニューアルを検討します。桜まつりなどの市を代表するイベントに加え、日常生活の豊かさに資する日常的な小規模イベント、集い、休息など、多様なシーンに対応可能な空間を目指します。また、暮らしの充実や持続可能な市民の参加に向け、市民の交流や多様な活動を支える施設整備も検討します。

岩倉の原風景の保全

五条川は、岩倉の誇る地域資源として、広場と一体的な活用を検討します。将来の河川整備に向け、川と桜並木の風景の保全や桜の適切な維持管理について検討します。

■お祭り広場及びその周辺の現況と課題

地域が有する魅力の有効活用

- 子どもたちをはじめ、市民に日常的に親しまれています。
- 戦国武将として名高い山内一豊生誕の地であり、記念碑が設置されています。
- 市指定の保存樹木や10mを越えるイチヨウヤクスノキ、川沿いのサクラにも負けない貴重なサクラ（四月桜、十月桜）など、良好かつまとまった樹木が生育しており、近隣地区の中でも緑豊かな場所となっています。
- 五条川や川沿いの桜並木など、岩倉市を代表する景観資源に面しています。
- これらの地域が有する魅力をこれまで以上に有効に活用した景観の創出や利活用の工夫が必要です。

広場の使いこなしの工夫

- お祭り広場及びその周辺は、日常的な憩いやレクリエーションに加え、桜まつりや山車夏まつり、鍋フェスなど主要な地域イベントを支えてきた、地域にとって重要な広場です。
- 一方で、地域のイベントを除き普段は子どもの遊び場や散歩の休憩などの利用にとどまっており、小規模なイベントなど、日常的な集客活動は行われておらず、使いこなしの余地があると言えます。
- 岩倉市内には市民活動団体が多数あり、市民活動が盛んに行われていますが、これらを発信・連携し、地域主体の持続性のある”まちづくり”につなげることで地域の個性や魅力の強化につなげていくことが必要です。
- 住宅に囲まれた立地であり、音出しなど住環境への配慮や工夫も検討が必要です。



良好に育った樹木



神明生田神社入口



神明生田神社境内



良好に育った樹木



イベントでの利用



イベントでの利用

真光寺橋

墓地

お祭り広場

児童館

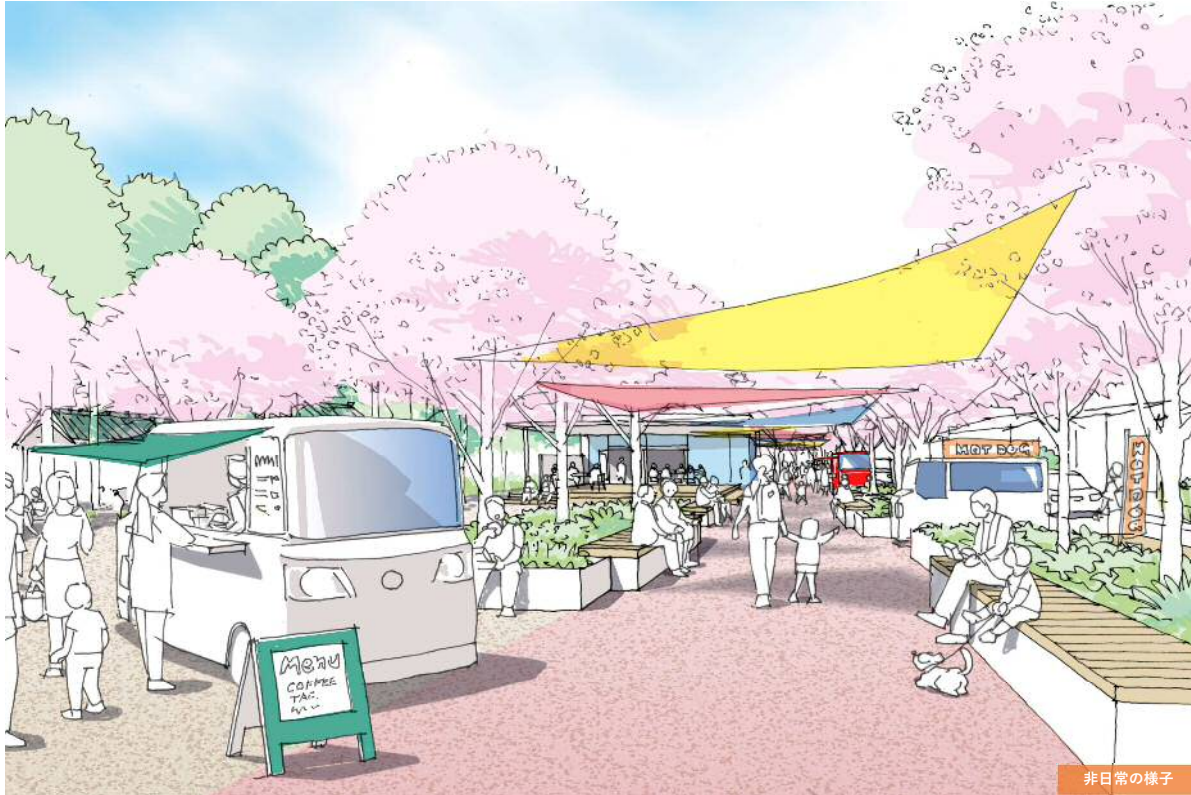
五条川

リビングベースいわくら ~新しい「いわくらしやすい」が表出する、居住者のための新たな拠点の創出~

現在お住まいの市民に加え、新たに居住を選んでいただく市民、および来訪者の日常を支えるまちのオアシスを目指します。現況機能である児童館などの託児機能に加え、様々な暮らしを支え向上させる機能向上を官民連携で目指します。

暮らしを高める機能については、地域住民などの意見聴取の機会を設け、この場所ならではの暮らし「いわくらしやすい」を垣間見ることのできるショールームとします。

広場を眺めながら憩えるカフェ、生活を支えるランドリーやコワーキングオフィスなど、公共だけでは実現できない民間の柔軟なアイデアを取り入れるため、周辺からの回遊性を高め、広場と一体となった拠点施設整備を検討します。



非日常の様子

日常の様子

○小さな活用から商業を育むプロムナード空間の活用

- 「個の憩い」に着目した普段使いに対応したプロムナード空間とします。
- 屋台やキッチンカーなどが入るスペースを設けることで、イベント時にプロムナードが「小さなショールーム」と化します。ここでお気に入りのオーナーや店舗と市民がつながります。
- 活用は商業だけでなく、アートの展示など、様々なシーンに対応可能です。

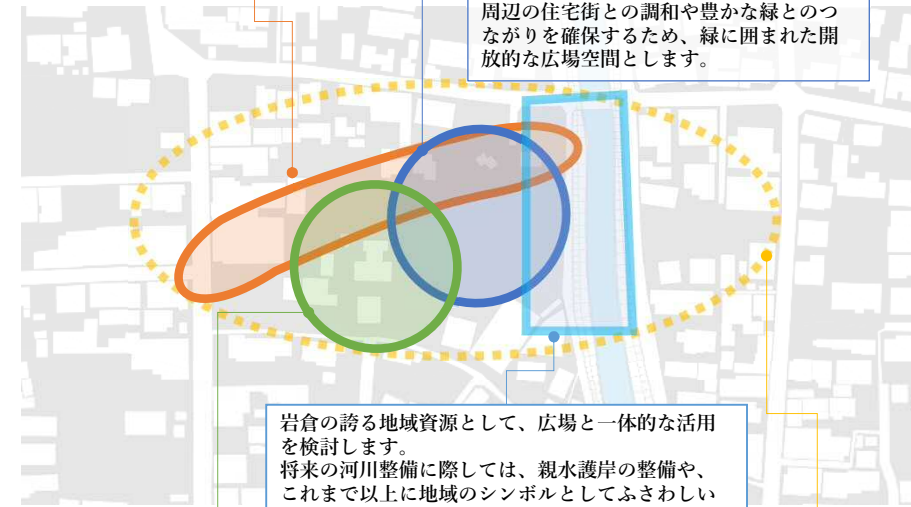


駅から都市計画道路桜通線を通り広場へ向かう玄関口としてふさわしい景観を創出します。防災機能や暮らしのアップデートや持続可能な市民の参加に向け、市民の交流や多様な活動を支える施設整備も検討します。

日常の潤いゾーン

生活機能向上ゾーン

新たな岩倉の魅力を発信する拠点として、桜まつりなどの市を代表するイベントに加え、日常的な小規模イベント、集い、休息など、多様なシーンに対応可能な空間を検討します。周辺の住宅街との調和や豊かな緑とのつながりを確保するため、緑に囲まれた開放的な広場空間とします。



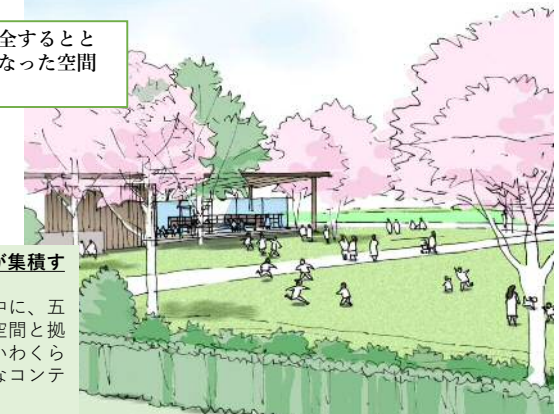
岩倉の誇る地域資源として、広場と一体的な活用を検討します。将来の河川整備に際しては、親水護岸の整備や、これまで以上に地域のシンボルとしてふさわしい橋や利活用に資する橋への架け替えを検討します。

五条川

将来的に、道路整備、河川改修とあわせて、周辺の建築の低層部の店舗利用促進や広場の拡張を検討します。

歴史景観ゾーン

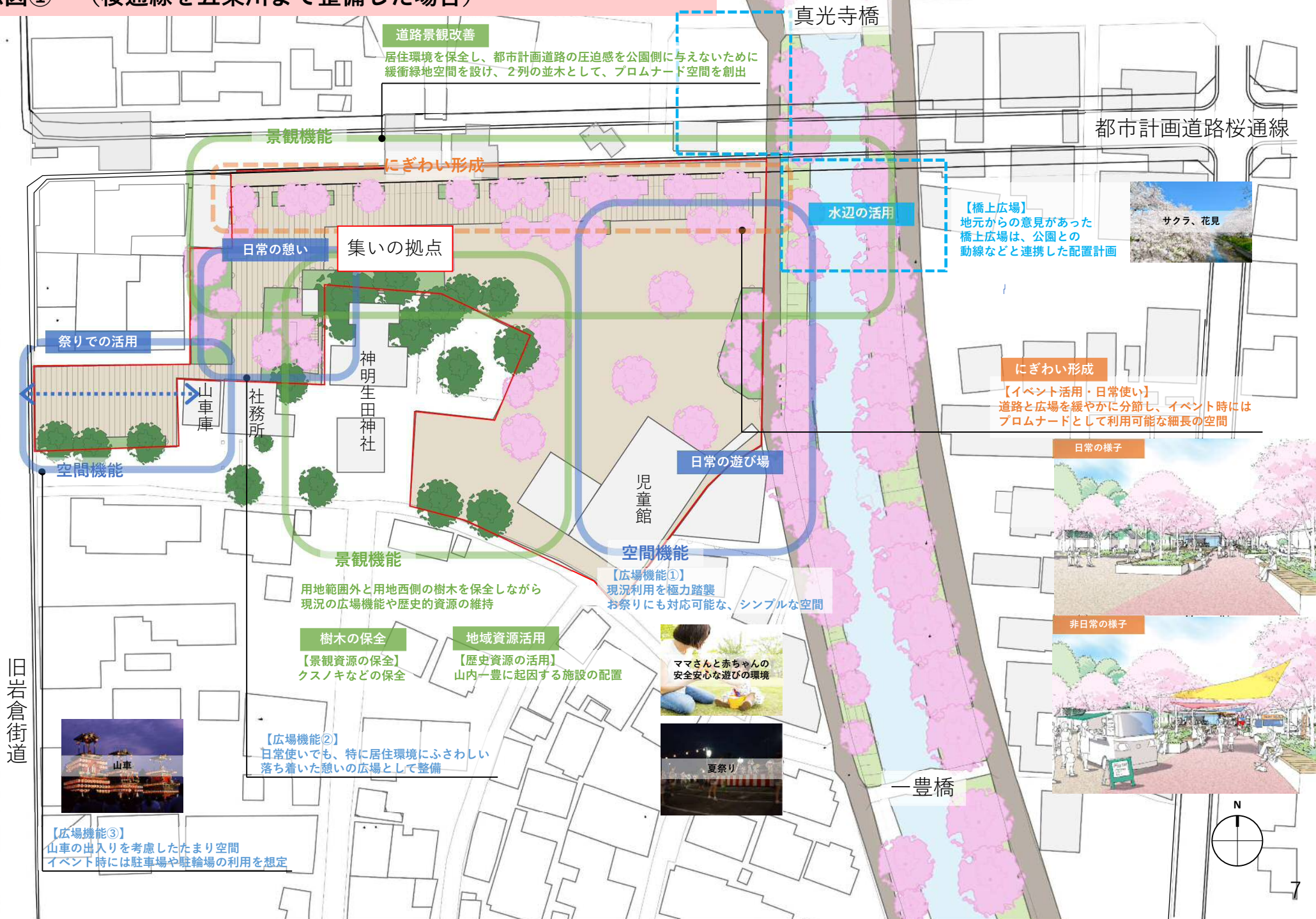
神明生田神社から連なる豊かな緑を保全するとともに、(仮称)にぎわい広場と一体となった空間や利活用を検討します。



○暮らしを支えアップデートする機能が集積する生活機能向上ゾーン

- 居住と広場を柔らかく分節する緑の中に、五条川の自然を取り込んだ広大な広場空間と拠点施設を整備します。拠点には、「いわくらしやすい」をアップデートする様々なコンテンツを準備します。

■ 構想図① (桜通線を五条川まで整備した場合)



道路景観改善
 居住環境を保全し、都市計画道路の圧迫感を公園側に与えないために緩衝緑地空間を設け、2列の並木として、プロムナード空間を創出

景観機能

にぎわい形成

日常の憩い 集いの拠点

祭りでの活用

空間機能

山車庫

社務所

神明生田神社

日常の遊び場

児童館

空間機能

【広場機能①】
 現況利用を極力踏襲
 お祭りにも対応可能な、シンプルな空間

景観機能

用地範囲外と用地西側の樹木を保全しながら現況の広場機能や歴史的資源の維持

樹木の保全

【景観資源の保全】
 クスノキなどの保全

地域資源活用

【歴史資源の活用】
 山内一豊に起因する施設の配置

【広場機能②】
 日常使いでも、特に居住環境にふさわしい落ち着いた憩いの広場として整備



真光寺橋

都市計画道路桜通線

水辺の活用

【橋上広場】
 地元からの意見があった橋上広場は、公園との動線などと連携した配置計画



にぎわい形成

【イベント活用・日常使い】
 道路と広場を緩やかに分節し、イベント時にはプロムナードとして利用可能な細長の空間

日常の様子



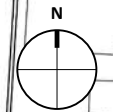
非日常の様子



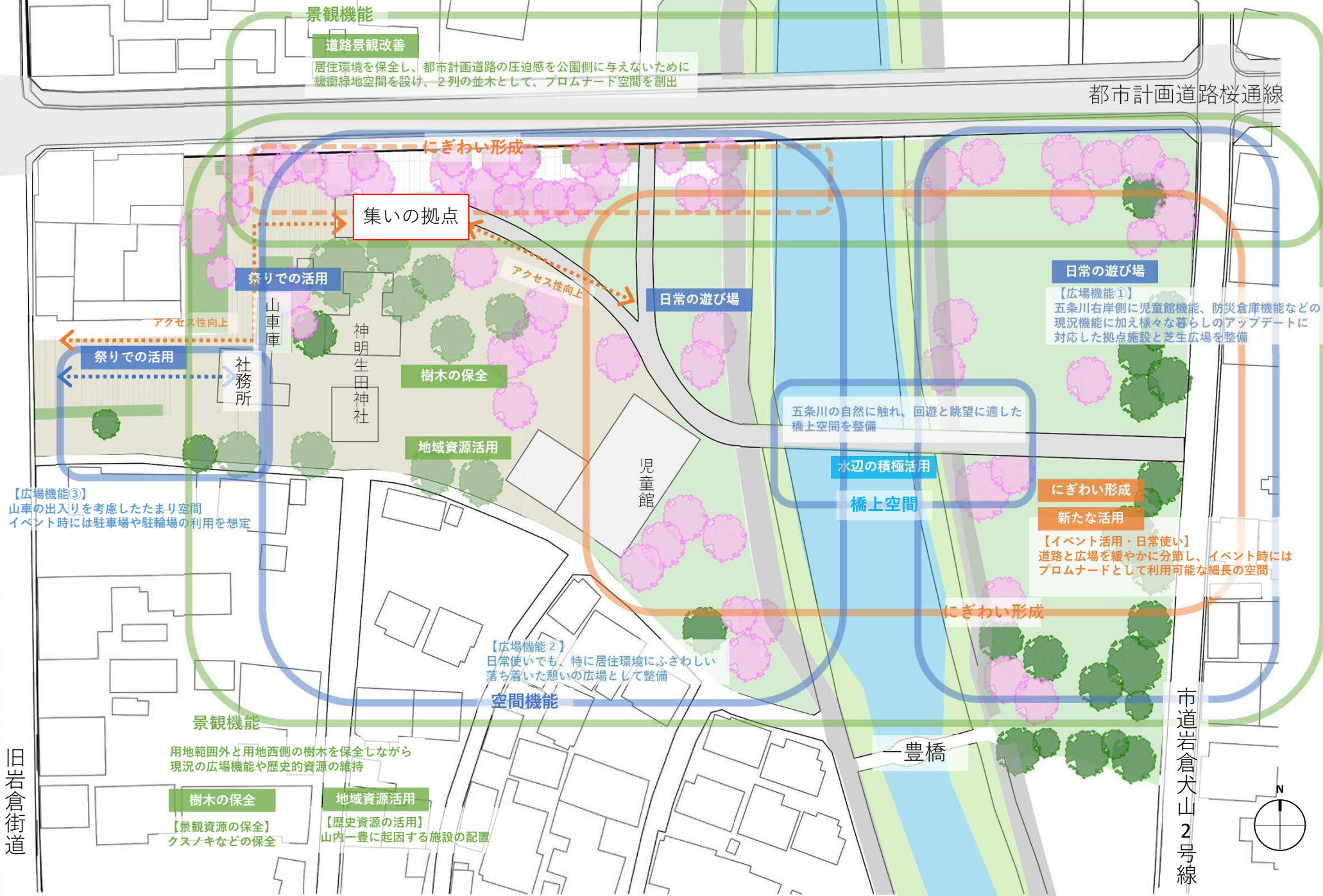
【広場機能③】
 山車の出入りを考慮したたまり空間
 イベント時には駐車場や駐輪場の利用を想定

旧岩倉街道

一豊橋



■ 構想図② (桜通線を市道岩倉犬山2号線まで整備した場合)



■実現化方策

■事業スケジュール

事業の推進にあたっては、にぎわい創出に向けて、地域にふさわしい景観の創出や利用に資する施設整備に加え、公共だけでは実現できない民間の創意工夫による利活用が重要です。事業着手段階から地域の皆様のニーズを広く集め、計画に反映させるとともに、民間の事業者による店舗（カフェなど）の導入可能性についても検討します。

